

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	5年 外国語（12月） We Can! I Unit 7 Where is the treasure? 第2時／4時間扱
③ 言語活動の充実を目指した授業づくり	東京都板橋区立板橋第六小学校 6年担任 村田依玖美

※昨年度の実践のため、教科書は We Can! I を使用しています。Where is the treasure? の単元では、位置関係を表す前置詞の学習も内容に入っていますが、今回は道案内の部分のみの時数を記載しています。

教室案内を題材とした言語活動を通して道案内の表現を身に付ける指導の工夫

「口頭で 現在地→相手の行きたい場所の道案内ができる」を単元のゴールに据えて

担任がする道案内を繰り返し聞いたり、担任や友達とやり取りをしながら自分で道案内をしたりする活動を通して、表現の意味を理解し、使えるようになっていく児童の様子が見られました。

時数	・主な活動【技能】 表現	学習内容概要
1	<ul style="list-style-type: none"> 旗揚げゲーム【L】 Put your right/left hand up. Put your right/left hand down. Where is 透明ちゃん?【L】 Go straight (for 2 blocks). Turn right (at the first corner). She's on your right/left. 	<p>ゲーム感覚で楽しみながら、right と left の意味を理解し、定着させる。道案内で使う go up や go down の表現につながるよう up/down の意味のイメージをもたせる。</p> <p>教室にて、児童の座席1つ1つを建物に見立てて行う。担任の足元には見えない「透明ちゃん」がいるとし、担任は透明ちゃんに道案内をする。児童はそれを聞き、透明ちゃんが誰の席に着いたか当てる。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇先生はどこかな【L&S】 	以下 参照
3	<ul style="list-style-type: none"> 地図を完成させよう【L&S】 Where is 5-2? Go straight (for 2 blocks). Turn right. It's on your left. 	Information Gap を使った活動。担任の Where is 5-2? の質問に対し、5-2 の場所が載った地図を持っている児童は道案内をし、載っていない地図を持つ児童はそれを聞いて地図を埋めていく。徐々に担任⇄児童を、児童⇄児童へ、また同時に道案内をする児童数を減らし、1人でも道案内ができるようにする準備とした。
4	<ul style="list-style-type: none"> Where is it?【L&S】 Go straight (for 2 blocks). Turn right (at the first corner). It's on your left. Let's Listen 3【L&S】 Go straight (for 2 blocks). Turn right. It's on your left. 	<p>「〇〇先生はどこかな?」で使用した地図より現実的な町のイラスト（We Can! I p.54 の地図をもっと広範囲にしたようなもの）で、担任の道案内を聞いて場所を当てる。担任の英語を再び聞くことで、不安の残る表現を再確認できる機会とした。</p> <p>Let's Listen 3（We Can! I p.54）に取り組んだ後、</p> <p>①1人の児童（立候補）がクラスみんなに道案内をし、他の児童はその場所を当てる。</p> <p>②ペアをつくり、ペアの相手に自分が選んだ場所まで好きなルートで道案内をする。相手は着いた場所を当てる。</p>

やり取りをしながら表現を覚えていく工夫（第2時）

書画カメラで写した学校の校舎内地図。昇降口には足型のついたマグネット。〇〇先生に用事があって来校したお客様を先生のところまで案内する活動です。

初めのうちは児童に〇〇先生のいそうな場所の予想だけさせ、道案内は担任が行います。一度、表現だけを聞かせ、再度表現を聞かせながらマグネットを動かし音と意味を結び付けていきます。付箋をめくり、そこに〇〇先生がいれば次のお客様の案内へ。いなければそこから次の予想を立てて道案内の続きをします。これを繰り返すうちに、担任より先に、あるいは担任の道案内を聞きながら自分も言える部分だけ一緒に、道案内をする児童が出てきました。（straight/right/left/2 blocks など道案内の際に重要な情報の部分は割と早い段階で言えるようになり、初めにその部分だけ児童が担うようになっていきました。）blocks の s や、前置詞、It's などの機能語は定着が遅かったり、誤りがあったりしたのでリキャストしながら活動を繰り返しました。

その後、表現がずいぶん言えるようになってきた段階で、マグネットを動かす部分を児童に任せたり、挙手のあった児童に道案内を任せてみたりしました。児童から「先生がどこにいるのか、全員確かめたい」という声が上がったので、全ての先生が見つかるまで活動を繰り返しました。



指導助言・アドバイスコーナー

We Can! でもそうでしたが、高学年外国語教科書では、道案内の場面を扱っています。この道案内は、動作化ができることや表現が限られていることなどから、子供が表現を比較的言いやすい題材だと思います。しかし、道案内をする必然性を授業で作ることが難しいと、私はいつも悩みます。相手が、地図を見せ「Where am I?」と尋ねる状況は別ですが、まず、地図がある時点で、道案内をする必然性が薄れます。ましてや子供がよく知っている校内での道案内は、必然性が薄れます。そのような中、本実践では、少しでも子供たちが道案内をしなくなる、聞きたくなくなるよう村田教諭の工夫が感じられます。（文科省視学官 直山 木綿子）